

### JA共済の地域貢献活動 ～交通事故対策活動の取り組み～

JA共済は、地域に暮らす皆さまが、笑顔で、安心して暮らしていくために、さまざまな地域貢献活動に取り組んでいます。

交通事故を未然に防ぐ活動や、交通事故被害者の社会復帰の支援など。これからも、皆さまが安心して暮らせる環境づくりのために、取り組みを続けていきます。



中・高生向け自転車交通安全教室  
シルバー世代向け交通安全教室(交通安全集訓)  
親と子の交通安全ミュージカル(真田家元モデルワタル)  
介助犬の育成・普及支援

一人は万人のために  
万人は一人のために

JA共済の父である賀川豊彦が  
目指したのは、人びとが助け合い、  
支え合って生きてゆく社会の実現でした。

協同組合が共済事業を通じて、  
地域に暮らす人びとの生活に  
安心を提供すること。

JA共済は、この変わらない使命を胸に、  
これからも「農」と「食」を基軸とした  
協同組合として、「安心」と「満足」で  
地域をつないでいきます。



賀川 豊彦



ホームページアドレス <http://www.ja-kyosai.or.jp>

## 第66回日本学校農業クラブ全国大会 群馬大会

### 報告特集

#### 最優秀賞(文部科学大臣賞)

### 星野 人紀さん

群馬・中之条高校



**父とともに!**

「おれ、パティシエになりたい。それは中2の夏休み、畑で汗をぬぐいながら両親と休んでいた時のことでした。いきなり父に「将来どうするんだ」と聞かれ、私ははきり口になりました。65年続く酪農家の3代目である父は、意外にも笑顔で背中を押してくれました。

「将来どうするんだ」と聞かれ、私ははきり口になりました。65年続く酪農家の3代目である父は、意外にも笑顔で背中を押してくれました。

父は、幼いころからお菓子が好きで、祖母のおやつ作りを手伝ってました。昨年の夏、中学生対象の体験入学で、牛乳を使ったバターやパン作りを指導する機会がありました。パンが焼き上がるまで期待と不安が入り混じりましたが、焼き上がったパンを口にしたら感動は忘れられません。インターンシップは、北軽井沢で人気のパン屋さんに研修させていただきました。限られた時間で素材作りの大切さを素材のおいしさを生かすことの難しさを学び、将来の夢をはっきり描くことができました。

卒業後は、専門学校で菓子作りの基本を学び、洋菓子店やレストランで経験を積みながら実力を高めたいと考えています。将来は、わが家にオープンカフェをつくり、父自慢の牛乳と北軽井沢産の果物や野菜を使ったお菓子作りを挑戦し、地元活性化の手助けをしていきたいです。

それが、わが家の酪農経営、そして地元農家の一助となり、代々築き上げてきた北軽井沢の農業全体を盛り上げる一歩となるはずなんです。私は、家族とともに様々なハードルを乗り越え、必ず夢を実現させます。

#### 最優秀賞(文部科学大臣賞)

### 村松 奈菜さん

愛知・佐屋高校



**ホタルは環境バロメーター**

ホタルはほとんど水中で過ごすため、水辺環境のバロメーターと考えられています。私は現在、農業や化学肥料を一切使わないアヒル農法に取り組んでいます。そこで、学校の水田でホタルが生息しやすい環境をつくるのができないか考えてみました。

まず、高校の隣町にあるアヒル水田の周囲に溝を掘り、そこに砂利を敷き、水を流し込んでホタル繁殖用の水路をつくり、幼虫を放流。溝の両側は幼虫が上陸し、さなぎになり、成虫に羽化しやすい環境を整えました。水田からは餌となるカワナガが移動しやすいように水路を切りました。まだ田植え前の5月上旬、驚くべきことがわかりました。稲の大書虫やアヒル君達も食べない、ジャンボリンゴをホタルの幼虫は集団で襲って食べているのです。

そして、5月の下旬夜8時ごろ、先生から一本の電話が「ホタルが光ったぞ。懐いて見に行くと、そこにはきれいに光っているホタルの姿があり、心の底から感動しました。ホタルは自然環境の中で育つもので、大切なことはホタルの生態を理解し、その生活環境すべてを再現することにあります。

#### 最優秀賞(農林水産大臣賞)

### 興梠 友成さん

宮崎・都城農業高校



**ブランドチャンピオン獲得への挑戦**

「日本の和牛生産を目指して」

私の故郷・高千穂町は、九州山地のほぼ中央に位置しています。この地で曾祖父の代から続く肉用牛専業農家として、父はこれまで和牛の品質向上を目指し何度も和牛共進会に出品しながら、牛づくりに励んできました。2007年その努力が報われ全国和牛能力共進会の部門別で日本一を拡大もできず、そこで現状の規模で収益を上げることを目的に経営を見直し、3つの問題解決に取り組むことにしました。

1つ目は受胎率を上げて、出荷頭数を増やし、収入を高めることです。牛の力

関係に応じて牛房の頭数を適正にし、また、適正な発情回帰と発情発見のため、放牧場を設け丈夫な牛をつくりたい。

2つ目は子牛の下痢対策です。分娩前にワクチンを接種し、初乳の免疫抗体含量を高めることで、子牛の下痢を予防します。

3つ目は生産費の削減です。狭く限られた畑を最大限に活用するため、収量の高い飼料作物を作付けします。このような取り組みで収益率を改善し、粗収益をアップすることを目指します。

高千穂の農業を守り、一世界農業遺産へ向けて日々精進し、ブランドチャンピオンの夢を実現します。

### 意見発表会



今日という人生に、農業ができること。 JAバンク